

福島県立医科大学 学術機関リポジトリ



Title	放射線災害医療学講座(論文・著書・発表等)
Author(s)	
Citation	福島県立医科大学業績集. 31: 331-333
Issue Date	2021-03-19
URL	http://ir.fmu.ac.jp/dspace/handle/123456789/1463
Rights	©2021 福島県立医科大学
DOI	
Text Version	publisher

This document is downloaded at: 2023-05-05T08:10:53Z

放射線災害医療学講座

論 文

〔原 著〕

Iyama K, Inokuma T, Sato S, Yamano S, Tajima G, Hirao T, Tasaki O. Novel screening criteria for post-traumatic venous thromboembolism by using D-dimer. *Acute Medicine & Surgery*. 201901; 6(1):40-48.

Tsujiguchi T, Ito K, Sato D, Mikami J, Shiroma Y, Hasegawa A, Yamamura H, Kashiwakura I. The Development of an Active Learning Program for the Medical Responders in a Nuclear Disaster. *Disaster Medicine and Public Health Preparedness*. 201912; 13(5-6):853-858.

Ohba T, Hasegawa A, Suzuki G. Estimated Thyroid Inhalation Doses Based on Body Surface Contamination Levels of Evacuees After the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant Accident. *Health Physics*. 201907; 117(1):1-12.

Matsunaga H, Orita M, Iyama K, Sato N, Aso S, Tateishi F, Taira Y, Kudo T, Yamashita S, Takamura N. Intention to return to the town of Tomioka in residents 7 years after the accident at Fukushima Daiichi Nuclear Power Station: a cross-sectional study. *Journal of Radiation Research*. 201901; 60(1):51-58.

長谷川有史. 【緊急被ばく医療】緊急被ばく医療の実際について考える 医療機関における緊急被ばく医療の診療手順. *救急医学*. 201905; 43(6):743-752.

岡崎龍史, 林 卓哉, 松田尚樹, 長谷川有史, 佐藤健一, 加藤尊秋, 神田玲子, 島田義也, 立石清一郎, 森晃爾. 産業医に役立つ最新の研究報告 放射線教育プログラムによる福島原発作業員の知識向上と不安低減の定量的解析. *産業医学ジャーナル*. 201911; 42(6):61-66.

長谷川有史. 【医療の近未来予想図】大変化の先に幸福あり. *日本医事新報*. 201905; 4958:55.

大津留晶, 緑川早苗, 熊谷敦史, 安井清孝, 大葉 隆, 千葉靖子, 宮崎 真, 佐藤久志, 長谷川有史, 津山尚宏, 坂井 晃, 石川徹夫. 放射線健康リスク科学教育の医学教育における潮流と本学での取り組み. *福島医学雑誌*. 201904; 69(1):85-94.

研究発表等

〔研究発表〕

長谷川有史. 緊急被ばく医療－基礎の基礎－. 福井大学緊急被ばく医療総合シミュレーション基礎コース; 20190309; 福井.

長谷川有史. 原子力災害のBCP策定において考慮すべき項目－福島第一原子力発電所事故の経験を踏まえて－. 第24回日本災害医学会総会学術集会; 20190318-20; 米子.

長谷川有史. 原子力災害に対応する人の意識に影響を与える因子の検討：コミュニケーションの視点から. 第24回日本災害医学会総会学術集会; 20190318-20; 米子.

長谷川有史, 大葉 隆, 大津留晶, 佐藤健一. フォーカスグループインタビューにおける頻出語句とインタビュー対象者の社会的背景に関する検討—原子力災害の放射線健康不安調査から—. 第4回放射線災害・医科学研究拠点カンファレンス; 20190601; 広島. 抄録集. 57-59.

林 卓哉, 立石清一郎, 松田尚樹, 長谷川有史, 佐藤健一, 加藤尊秋, 神田玲子, 島田義也, 蓑原里奈, 森晃爾, 岡崎龍史. 放射線教育プログラムによる福島原子力発電所作業員の意識向上と不安低下度の定量的解析. 2019年度日本産業衛生学会九州地方会; 20190712-13; 福岡.

長谷川有史, 佐藤良信, 山田裕美子, 大戸 実, 柴田久美, 山田浩司. 医療職が積極的に原子力災害に関わる意識を啓発するためには?—意識に影響を与える因子の検討—. 日本放射線看護学会第8回学術集会; 20190928-29; 福島. 抄録集. 98.

〔シンポジウム〕

Kanno S, Ohba T, Mabune K, Hasegawa A. The survey of management conditions for users at the facility equipped whole body counter in Fukushima Prefecture. 放射線災害・医科学研究拠点第3回国際シンポジウム; 20190113-14; 福島. 抄録集. 69.

長谷川有史. 原子力事故後の放射線リスクとその認知：医療従事者の視点から. 福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センター主催 国際シンポジウム; 20190114-15; 福島. 抄録集. 16.

Hasegawa A. Methodology of Monitoring Environment & Agriculture. Consultancy Meeting on STS Education Support on Return in the Context of Low-dose Radiation; 20190116-17; 福島. 抄録集. 29.

長谷川有史. 原子力事故後の災害医療対応について～福島の経験から～. 国際シンポジウム 原子力事故後の甲状腺健康モニタリングの在り方について～WHO 国際がん研究機関の報告より～; 20190307; 東京. 公開資料. 26.

Hasegawa A. Living in the region as an educator: how to pass the lessons learned to the future medical professionals. Technical Meeting on Communication on Low-Dose Radiation the Role of Science, Technology and Society; 20190328-30; 福島. 抄録集. 21-22.

〔特別講演〕

Hasegawa A. Experience of Fukushima Medical University in radiation emergency response exercise. Radiological Emergency Response Exercise in South Korea; 20191030; Seoul, Korea.

長谷川有史. 原子力災害医療派遣チーム講習 机上演習 派遣先での活動基盤の確立. 平成30年度原子力災害医療派遣チームに関わる専門研修; 20190218; 静岡.

長谷川有史. 地震、津波、原発事故と福島県のいま. 第18回東北地区介護老人保健施設大会 in 福島; 20190831;

福島.

長谷川有史. 救急医療の視点から見た原子力災害と放射線リスクー私たちが学んだリスク相場観ー. 第20回日本法医学会学術北日本地方集会 法医学談話会 106 回例会; 20191108-09; 福島. 抄録集. 8.

〔その他〕

井山慶大. 突然の胸痛と呼吸困難に襲われた男子高校生. 第9回豊橋ライブデモンストレーションコース; 20190620-22; 豊橋.

長谷川有史. 霧と摩擦の中で～福島事故で医療対応にあたった医師の反省～. 放射線災害医療サマーセミナー 2019; 20190805-09; 福島, 檜葉町.

長谷川有史. 原子力発電所内の被ばく医療体制. 第7回日本放射線事故・災害医学会年次学術集会; 20190921; 仙台. 抄録集. 10.

リハビリテーション医学講座／リハビリテーションセンター

論 文

〔原 著〕

松塚 崇, 小原伸樹, 武田治美, 戸澤香織, 佐藤美恵子, 鳥羽 衛, 成田 将, 黒澤 伸, 大内一夫. 3月に総手術数が増え手術延長数も増える 当院手術部におけるオカレンスレポートの後ろ向き解析. 福島医学雑誌. 201908; 69(2):121-125.

著 書・訳 書

大内一夫. 治療法の選択. In: 須田康文 編. 外反母趾 病態を理解し, 正しい治療選択ができる. 東京: メジカルビュー社; 201911. p.241.

研究発表等

〔研究発表〕

渡辺祐樹, 二階堂琢也, 阿部純平, 小林寛崇, 鈴木秀基, 長峯沙紀子, 小野洋子, 佐藤真理, 矢吹省司, 大井直往. 腰痛を有する腰部脊柱管患者の QOL に影響を及ぼす因子の検討. 第24回ペインリハビリテーション学会学術集会; 20190921-22; 名古屋.

大内一夫, 武田治美, 鷹木真由美, 戸澤香織, 鳥羽 衛, 成田 将, 長谷川結花, 小司和里, 菅野千代子,